

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800997		
法人名	上益城農業協同組合		
事業所名	やまびこ		
所在地	上益城郡山都町下馬尾288		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村報告日	令和5年 4月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて『あなたの笑顔と思いを大切に自立した日々が送れるようにお手伝いします』お一人おひとりのニーズや思いを汲み取り、寄り添い、できるだけ自宅と変わらない暮らしのお手伝いをします。 この数年、新型コロナウイルス感染症の為、地域の方の慰問や地域への外出ができませんがこの場所にグループホーム「やまびこ」という認知症対応型共同生活介護があることは地域の住民の方へ広く理解されておりともに支え合う。ご近所という関係も長年の中で培うことができます。地域に自然に溶け込み開かれたホームでありたいです
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柔らかい陽射しが差し込むリビングでは、穏やかに生活する入居者の姿がありました。行事ごとに壁新聞が作られ、楽しむ皆さんの姿が生活の様子を伝えています。昨年管理者の交替があり、厳しい職員体制の中でも助けあい、入居者の生活を支援する様子がありました。コロナ禍であることから、従来の地域との関わり等難しい状況が続いていますが、家族との関係が希薄にならないよう、共に支える姿が継続されていました。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を考え理念に取り入れ職員はその重要性を理解し地域の行事の手伝いなどに積極的に協力している。	入居者の笑顔と意思を大切にする思いが込められた「理念」と「やまびこの思い」は玄関への掲示やパンフレットにも記載している。	今年度は管理者の交代がありました。理念は介護計画や日頃のケアにも関わることです。事業所の目指す介護のため、理念を振り返る機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つながりホームを通し地域の方と交流をもち高齢者健康づくり等に積極的に参加していく用意を行っているが新型コロナウイルス感染症の為交流の機会が失われている	コロナ禍であり入居者と地域との関わり作りは難しい状況であったが、昔から馴染みのある祭りの見学や花火を楽しむ機会があった。事業所では運営推進会議の資料を持参する等、地域との関わり作りを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要請があれば認知症サポーター養成講座を開催したり地域の中学生の研修の受け入れをしている。が、新型コロナウイルス感染症の予防対策のためその機会はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を実施し区長さんや民生委員さんご家族・行政などと意見交換を行いサービスの向上につなげている。新型コロナウイルス感染症の為、書面での開催となった	年6回の運営推進会議は都度感染状況を把握し開催を模索したが、書面による報告となった。今年度は地域との関係作りのため書面を持参し、意見等も得る機会とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度担当者や地域包括支援センターの職員とは情報を交換し協力関係を築いている。	手続き等は法人の協力も得ており、日頃の報告・連絡・相談等は都度連絡をとり協力関係の構築に努めている。地域包括支援センターとは情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止指針に基づきケアを実施している。身体拘束は行っていない。定期的に勉強会を行い職員の意識向上を図っている。	法人で開催する委員会は3ヶ月毎に開催され、事業所からも職員が参加している。事業所では指針の勉強会を行った。法人職員からの指摘により事例と思われる事柄が発生した際には委員会・事業所で議題を持った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、高齢者等虐待防止指針を制定しており定期的な勉強会を行い入浴での身体確認などで職員間で確認し防止できている。		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加は行っているが現在のところ活用する必要がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にくわしく説明を行い疑問点については、その都度お尋ねくださるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開催し個別に要望を伺っている。また必ず運営推進委員会に出席して頂きご意見を聞く体制を取っているが、新型コロナウイルス感染症の為その機会を逸している	今年度はコロナ禍のため家族会の開催はできなかった。「顔を見たい」の要望もあることから、窓越し等面会方法を工夫しできるだけ受入れを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上の定例会を開催している。また必要時に提案をして話し合いを行っている。	職員は日頃から管理者へ意見や提案を述べる事ができる体制である。毎月1回を基本として全職員で話す機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやる気や向上心をもって働くことができるように労働条件の整備に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった内部・外部の研修を受ける機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会を通じ研修会や交流会にて情報の交換をしサービスの質の向上に努めている。新型コロナウイルス感染症ため、対面での交流や学習の機会が減っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に安心して暮らして頂けるようにご本人やご家族のお話を伺い不安のない暮らしができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを尊重しなんでも話しあえる関係作りを行い安心して預けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を行い場合によっては他のサービスの利用の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人される人と考えず同じひとつの家に住む家族としてとらえている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を共に支えていくという意識をもって頂いている。受診や色々な行事への参加をお願いしている。新型コロナウイルス感染症にて交流の機会や受診時の付き添いの機会が減少している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店での買い物や行きつけの美容室の利用などで地域との関係が途切れないようにしていたが新型コロナウイルス感染症の為に訪問美容師による散髪を行っている	従来のような馴染みの人や場との関係継続支援はコロナ禍のため難しい状況であった。外出は通院が主であったが、その際には知人と会うこともある。家族との関係が薄れないよう、通院時には家族にも声を掛けている。	コロナ禍であり支援が難しい状況であることがうかがえました。社会情勢が落ち着いた際には、自宅訪問や近隣商店での買い物等、機会作りに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの位置を考え利用者同士の会話がはずむように工夫し共に暮らす人として交流がもてるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子を見に行ったり逆にご家族の訪問や電話等があったりして相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとり今の思いを聞き取りしている。できない方はかわりのなかでの言葉や態度からの把握に努めている。	近年、高齢化もあり思いや意向を表すことができる入居者も少なくなったが、日頃の職員の寄り添いにて言葉や仕草等での把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供書を頂きご本人やご家族より更に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間にて情報交換を行い状態の把握を行い生活リズムにあった出番作りをしている。選択たたみ等、自分の役割を持ってもらえるよう支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に課題についてご家族と話あったり気づきがあればその都度話し合いを行い介護計画の作成に活かしてたが、新型コロナウイルス感染症の為、電話にて家族との交流や意見交換を行い、介護計画へ反映している	入居者の日々の様子は職員間で共有しており、毎月の会議を利用し全職員でカンファレンスを行っている。体調変化時には出勤職員でカンファレンスを行っている。モニタリングは3ヶ月に1回を基本とし、家族の意見も求め介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間にて常にケアの中での気づきは記録として残しカンファレンスを行い計画の見直しを行い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や同級会への参加などそれぞれのニーズにこたえられるように対応している。新型コロナウイルス感染症の機会がなくなっている。子供が生まれた(ひ孫)時には、電話をかけおめでとうを伝えるなど行っている		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園への散歩や地区の公民館行事への参加し地域の一員として暮らしを楽しむ事ができている。新型コロナウイルス感染症の為外出の機会が減少し地域の中に出て行くことがなくなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人やご家族の希望としそれぞれの病院と連携をとりながら適切な受診ができるように支援している。かかりつけ医からWEBでの診察や往診など新しい生活様式のもとでの受診を行っている	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。通院は家族による付き添いを基本としているが、車椅子利用者も増え、職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在の時は関連施設の看護職に相談をしながら適切な助言をもらい必要であれば受診をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃ご本人へのかかわり方や状態を情報提供している。普段の受診時に主治医との信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で重度化になられた場合についての話し合いは行いホームで出来ることまた方針については説明している。必要時には関係者と話し合いを行うようにしている。	入居時に事業所の対応やできる事等を伝えている。実際にその時を迎えた際には家族や関係機関等と話し合いを重ね支援を行うが、医療機関への入院となる例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの操作方法などは定期的に消防署の協力を得て全職員ができるようにしている。 新型コロナウイルス感染症の為、消防署の協力を得ることができず、普通救命講習が開催できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜と訓練を行っているが地域の協力体制として運営推進委員さん地元の消防団の協力も得ていたが、新型コロナウイルス感染症の為自分たちだけでの訓練となっている。	昼夜年2回の避難訓練は入居者も一緒に行っている。居室入り口上部には、車椅子や手引きのイラストがあり、緊急時にも分かりやすい。訓練実施後は職員間で反省点を出し合い、次回に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドを傷つけないようにタイミングや声の大きさなどに配慮している。	入居者それぞれの尊厳に配慮した対応や言葉かけを行っているが、気になる場面があった際には数人でもミーティングの機会を持ち、管理者から職員へ日々声かけも行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの会話から思いをくみとりその思いに添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れが決まっているがご本人の希望があれば柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持には配慮している。なじみの美容室を利用していたが現在は、訪問される美容師(スタッフとして勤務している顔なじみの職員)に依頼している。衣類も好みの物を自分で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と同じテーブルにて摂取状態を確認している。食後の食器をお盆にのせてもらったり台拭きのお手伝いなどもお願いしている。感染予防対策としてアクリルパネルを利用している	入居者の身体状況もそれぞれであるが、配食された献立をミキサー、刻み等、事業所に対応し提供している。献立は行事も考えられている。入居者の誕生日には事業所でちらし寿司を作り提供している。法人の運営委員会で味付け等意見を伝える場を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食センターから管理栄養士の献立のもとバランスのとれた食事の提供を行っている。個々の状態をみてその人にあった形態としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった支援にて毎食後の口腔ケアはできている。		

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし時間毎に個々に声かけて誘導している。 紙パンツやパットもご本人に合わせて利用している。	入居者それぞれの記録により声掛け等で誘導し、できるだけトイレでの排泄を支援している。パットやおむつ等の大きさや使用量により変更が必要と考えられる際には、職員間で検討を重ね話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩にて運動をし腹部マッサージも行っている。おやつや空腹時の早朝牛乳による腸のぜん動運動にも期待している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日の流れが決まっているがご本人の希望があれば柔軟な対応をしている。入りたくないとお気持ちがある場合は声かけやタイミングを工夫してしているがご本人の気持ちを大事にしている。	基本的に入居者の希望・意向を大事にしているが、できるだけ週2回以上の入浴に努めている。浴槽を利用できる入居者も減ってきており、シャワーや清拭等により清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとり気兼ねなくゆっくり休まれることが出来るように支援している。 眠前薬服用の方は決まった時間に服用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている内服の説明書は個別の内服袋に入れてありいつでも確認できるようにしてある。ひとりひとり服用まで確認し服薬後は症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残された出来ることが発揮できるように1日の暮らしの中で出番作りに努め満足感をもって頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回程の外出行事を行っている。 地域内の外出支援にて車椅子対応の方の外出もできており個々にあった外出支援ができています。地区の公民館行事にも地域の方の支援があり参加することができていたが、新型コロナウイルス感染症の為、機会がない。	現状、車椅子の利用者も増え、またコロナ禍であり地域行事も少なくなったことから、外出する機会が殆どなかった。陽当たりの良いベランダがあり、外を感じる機会を作っている。	車椅子利用者が増えたことや職員体制もあり、入居者のその日の希望での外出が難しいようです。個別でも良いので、近隣の散歩やドライブ等、取り組みの工夫に期待します。

グループホーム やまびこ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりして事業所にて管理しているが外出時や病院受診時などに支払いができる方は自分でできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでもかけられるようにしている。手紙は年賀状等をご家族宛てに出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物をおいたり季節の花を植えたりし落ち着いた暮らしができるように工夫している。音や光は生活感として捉えている。	入居者が時間を過ごすことも多いリビングはやわらかい陽射しが差し込み穏やかな雰囲気である。車椅子利用者も増えたが、食事時にはできるだけ椅子へ移るようにしている。入居者の中には掃除を手伝う方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとり思いのまま過ごせれていることができている。 ソファやテーブルの位置を工夫しゆっくりくつろげる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていた家具を置き好みの写真などを個々に飾っておられる。我が家に居るという安心感を得られるようにしている。	居室入り口の上部には、車椅子や手引き等のイラストが掲示されている。居室には洗面台が備えられている。家具や写真、テレビも持ち込まれ、家族の関わりを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を見極め危険のないような環境づくりをし自立した暮らしができるように支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 やまびこ

作成日 令和5年4月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		グループホームとしての活動が出来なくなっている	利用者の状況（認知症や、心身の状態）に合わせた少しずつでも参加ができるように（負担少なく）参加ができるように計画を行う	ボランティアによる慰問の再開 季節に応じた作品作成 工程の検討によりだれでも参加できるようにする	6か月～1年
2		職員の高齢化対策と働きやすい職場環境を整える	出来る仕事を細分化し働きやすい職場を作っていく 人員の確保を行っていく	魅力ある職場作りを行い、明るく意欲のある職員を募集していく	3か月～1年
3		終末期への取り組みとして本人・家族の思いを職員と共有し本人の思いに寄り添ったケアの充実を図る	利用者（家族）が望む終末期を過ごせるようにケアの充実を図る。	入所時から、本人・家族の意向を確認していく。 医療機関との連携を強化しやまびこができることを本人・家族と共有しておく	1年～
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。